

第8回総務、産業、建設常任委員会記録

招 集 年 月 日	令和4年6月23日（木）
招 集 の 場 所	議員控室
開 会	午前9時28分
出 席 者	委員長 山岸 三男 副委員長 佐野 善弘 委員 赤坂 芳則 委員 藤田 洋一 委員 櫻井 功紀 委員 前原 吉宏
欠 席 者	
職務のため出席した者の職氏名	議会事務局主事 佐藤 理子
協 議 事 項	1) 再質問に対する担当課からの回答について 2) 所管事務調査について
そ の 他	
閉 会	午前11時17分

2号様式 協議の経過

山岸委員長	皆さん、おはようございます。1、2分定刻より早いのですが、全員揃いましたので、ただ今から第8回総務、産業、建設常任委員会を開催します。今日は6名全員出席しておりますので、会議は成立いたしております。 本日、次第については3の会議事項で所管事務調査の1項目になっていますが、前回6月10日の第7回の常任委員会の中で担当課からの回答を皆さんに検証していただいて、その時点で2つの項目について再質問ということで、今日皆さんのお手元にその資料である回答書がございます。それを最初に検証していただいて、それから所管事務調査の協議に入りたいと思いますのでよろしくお願いします。 それでは早速、会議に入ります。今お話ししたとおり、皆さん第7回総務、産業、建設常任委員会を副委員長にまとめていただいたので、実は昨日ですか、今日かな。担当課のまちづくり推進課からの回答がここに書いてあります。まず、前回6月10日の時に質問の1)のほうですかね。この令和3年度移住イベントオンライン2回開催し、仙北7市町村のイベントで10人参加、宮城県内35市町村によるイベントでは3人の相談を実施しました。その結果と内容をあらためて聞いてくれということで、私直接課長にところに行ってお話をしていただいて、ここにその回答ということで文書に①から⑨番までございます。 一応、読み上げます。①町のPRパンフレットなどの更新を速やかに実施のこと。②令和2年、3年実施のオンラインの移住イベントの企画内容ということで、私が委員長として確認をするということで、定住、定着推進するための新たな組織体制を設けていないのはなぜか、の質問に対して、担当課からの答えがこれ④なのかな。
佐野副委員長	違いますよ。これは前回の会議の内容ですよ
前原委員	委員長、先にですね、次第の下にある資料を逆に説明してもらっていいですか。何がなんだかかわからなくなる。順番に説明してください。
山岸委員長	これは、所管事務調査の先進地に行く資料なのでこれはあとで。
前原委員	いやいや、上から順番に説明してくださいということを聞いているんです。今日来た時にこういうふうに全部そろって机の上に置いてありました。その資料について、皆さん確認していただきたいのですけれども。何が何の資料なのか。
山岸委員長	そう。今、手元にいろいろな種類の資料ありますね。まず、次第がございます。次第の次に今協議しています、総務、産業、建設常任委員会の6月10日の担当課に対する質問事項の回答書。前回の私が直接行って聞いてきた回答書がこれでいいんですよ。 (「はい、そうです」の声あり) 次の資料は大分県豊後高田市の。 では、休憩をいたします。
	休憩 午前9時33分 再開 午前9時36分

山岸委員長	再開します。 まず、次第には書いてなかったのですが、後ほど会議録の収録の段階で担当課からの回答についてを会議事項に入れます。それで、先ほど説明したとおりですが、回答書が（２）移住交流サポートセンターなどの定住に向けて組織の設置を今後検討する必要があるという。それで質問で１）現状の対応件数はどうなっていますか、ということで質問して、それでこの間６月１０日にやった時に再質問ということで、私課長のところに行ってお尋ねをして来まして、その回答として文書で確か今朝届いたと思うのですが、これにまとめてございます。その最初の１）の最初の質問で、答えが宮城県内３５市町村によりイベント参入、移住相談実施しました。その内容と結果についてはということで、この委員会でもう一回聞いたほうがいいよね、ということで、じゃ私行って聞いて来ますという答えが再質問の黒いダイヤモンドの移住に関する対応状況またその結果はということでここに読み上げます。 定住促進補助金に関する問い合わせは月に４、５件程度、空き家バンクに関する問い合わせは月に１、２件程度であります、その他の移住に関する問い合わせは年間でもほとんどない状況となっています、というのが再々質問の回答です。なお、移住イベントにおいて参加者から主に仙台市へのアクセス、子育て制度、定住促進補助金の質問が多い状況です。また、移住イベントの結果、これまで参加者が移住に繋がったのが令和３年度の１件のみで地域おこし協力隊として移住しています、というのが再々質問の答えです。回答になっています。 全部一応やってから、また。それから②の次のページ、移住サポート事業助成金を設け、移住を目的として町外から住居、仕事を探しに来る人に交通費、宿泊費の一部を助成し、意欲ある移住を考える人たちの細かなサポートをしていくということで、移住希望者に対する新たな支援策については今後の事業展開及びその効果を検討した上で事業拡大及び組織の拡充に繋げる必要があり、引き続き検討していく、ということでその内容についてまた、前回の質問は登米市、栗原市、東松島市などは移住サポート事業助成金、交通費、宿泊費助成の取組をしていますが、美里町はどうなっていますか、ということについての質問でこれ一回目です。本町では移住体験ツアーや移住お試し住宅の事業を実施していないため、交通費や宿泊費などの補助や助成を行っていませんが、引き続き検討してまいります、ということで再々質問で下の黒いダイヤモンドのね。引き続き検討するということであるが、どのように検討を進めるのかの考えを、ということでこの間聞きまして、その下の答えが本町における移住の体験イベントやお試し住宅などの事業については、移住、定住に興味を持っている地域おこし協力隊員とともに空き家の利活用を含めた様々な観点から検討を進めてまいります、というのが再々質問に対する回答です。 一応２点について、こういう新たな回答をいただきました。まず最初の１ページに戻って、移住に関する対応状況は、またその結果はということ
-------	--

	に対しては、答えとしては引き続き検討していくという回答ではあるのですが、あと協力隊員が令和3年度で1件のみでしたという回答でございました。 結果的には、本町においては移住サポート事業助成金を設けるといって、移住したいという人が他県、他町村からの交通費とか宿泊費を助成するということの事業展開が本町ではなっていない、できていないということで今後も引き続き検討していくという答えなのですね。直接課長と話した時もなかなか課長や課でそれを進めるということのも難しい状況にはなりますということ言っていましたけれども。一応、引き続き検討していくということなのではけれども。皆さんから何かご意見等があれば。 佐野副委員長。
佐野副委員長	6月10日のまとめたものを見ていただきたいのですが、確認の内容は確か移住イベントの企画内容という内容だったと思うんですが、もう一つが定住、定着を推進するための新たな組織を設けたらどうかという確認事項だと思ったのですが、ちょっと内容と違うのかなと。
山岸委員長	前回の結果と内容ということで聞いてきたのですが、こういう答えが返ってきたんですね。
佐野副委員長	イベントの企画内容という質問されて、委員長が確認するということだったので、企画内容を聞いてくればよかったのです。
山岸委員長	だから、ここに移住イベントをオンラインで2回開催して、仙北7市町村のイベントでは10人が参加して、県内は35市町村によるイベントでは3人の移住相談を実施したというのが内容で、内容の結果として聞いたら。
佐野副委員長	要は確認するのはイベントなんだね。
山岸委員長	イベントの内容は。
佐野副委員長	書いていない。
山岸委員長	内容としてはオンラインで2回開催したということ。対応と結果は、定住、補助金に関する問い合わせが4、5件。空き家バンクは1、2件程度。あとは移住に関する問い合わせは、年間ほとんどない状況になっていますということ。
佐野副委員長	それは結果ですよ。
山岸委員長	内容でもあり、結果でもあるのですが。こういう、一応回答でありました。
赤坂委員	質問の回答になっていないのではないですか。 (「委員長ね」の声あり)
山岸委員長	マイク使ってください。会議録にきちんと載せないといけないので。 藤田委員。
藤田委員	移住イベント、オンラインでしたの、答え返ってきているのですが、その中で35市町村によるイベントでは2年度は4人だと。3年度は1人減って3人だと。むしろ1人減っているが、県内35市町村によるイベントの内

	容でしょう。どのようなことをやったのかを確認したらいいのではないかと、こういう話だったと思うのだけれども。その中身というのは、例えば35市町村のうちにどこそこの町は、栗原がどうのこうの書いてあるけれども、いろいろなイベントやオンライン以外のイベントやったと思うので、その内容をということだったと思うのですが、副委員長が言ったのは。そのことの答えは来ていないのだね。そして移住したのは最後の4人のうち、協力隊員の1人が移住したと。どういう進め方したか、その辺も含めてどういふことをやったのですかという確認だったと思うのですが。協力隊員はここに移住するということで、最初からもう決まっていたからね。その辺の答え、これからの言うために我が町ではこういうことやったということでも参考になると思って、もう一回聞いたほうがいいのではないかといい話だったと思うのですがいかがですか。
山岸委員長	そのつもりで私はお尋ねして、文書で回答しますということで来たのがこの答えなのですね。これ以上、もう一回聞くか、どうしたらいいのですか。どうしますか。 赤坂委員。
赤坂委員	どういう企画をしたのかを知りたいわけですよ。何か所で何人集まったのかを聞いているわけではないの。例えば、お見合いパーティみたいなものをやったとか、どっかにツアーを企画したとか。よくやっているのは県のサポートセンターでふれあいパーティとか、あるいは船でのいろいろな交流パーティだとか。県北でやったのと宮城県のイベントの中身はどうだろうかと、それが知りたいわけですよ。 だから、この件について、もしインターネットで調べてくださいということであれば、それなりの対応なのだけれども。とりあえず、その中身をわかっててこういう状況の回答をしているのだと思うのですが。だから、委員長、質問事項ちょっと違ってもう一回言ってやったらいいのでは。
山岸委員長	確かに、答えとしての結果は一応出てるのです。結果は月に1、2件、あとは4件か、5件しかありませんよという、これは結果ですよ。ただ、今皆さんがおっしゃるのは内容、移住イベントオンライン2回、仙北7市町村でイベントは10人参加と県内35市町村のイベントでは3人の参加。この3つのイベントのそれぞれの内容をもっと詳しく知りたいということですよ。 (「そういう質問をしているはずだよ。再質問しましょう」との声あり) それで私は結果と内容をこういう話なのでという話をしてきたのですけれども、じゃ文書でということでしたのがこういう答えなので、あらためてもう一回確認しますか。 (「そうだね」の声あり) 赤坂委員。
赤坂委員	要は移住を促進するために具体的にこういうことをやりましたよ、それがこれから美里町が定住促進を進めるために一つのカギになるか、まったく参考にならないかとなるわけであって、だから今回やられたのがどうい

	う内容かということをとりにあえず中身を知りたいわけです。
山岸委員長	実施内容の中身ということですね。
赤坂委員	実際はオンラインだから、満足なことをやっていないことにはなるのだと思うのですが、いずれにしろ、いろいろなイベント企画がされていると思うんだよね。それに直接参加するか、オンラインで参加するかだけの違いのはずだ。その内容をやっぱり聞きたいなということだ。それと今度、視察に行く場所とのそういうのと比較対象ができると思うのね。やっぱり、その中身をもう一回聞いたほうがいいんじゃないですか。
山岸委員長	視察行く前にまだ若干時間がありますからね。 藤田委員。
藤田委員	この回答の中に定住促進補助金に関する問い合わせは4、5件程度ね。そして、さらには空き家バンクに関する問い合わせは月に1、2件程度ありましたと。その前に問い合わせに対して、我が町ではこういうことをやっています、イベントは参加できるのであれば、こういうことをやりますから来てくださいと言っているとと思うのだけでも、あとは一切来ないのだね。あとはここには連絡ありませんと、1年間でほとんどない状況となっていますということはやっていないということではないの。 （「違うと思います」の声あり） 前原委員。
前原委員	私が思いましたのは、質問の1)に対する回答というのは、この間の会議の中で書いてある部分だと思います。そのイベントの内容というのは、要は質問はどういう質問をしたのか、例えばそれに対する再質問の中の下から4行目の部分。このなお、移住イベントにおいてこういう項目が多かったですよっていう書き込みだったと思うのです、ここの部分が。参加者からは主に仙台へのアクセスを聞かれましたよと。何を聞いてきましたとか。あとは子育て制度についても聞いてきましたよとか。定住促進補助金はどれくらい出るのですか、何の項目に出るのですか。それに対する回答だと思います。質問はどういう質問をしたんですかとか、そういう聞き方をしないとイベントの内容というのはつかめないと思います。答えしか書いていないですよ、これね。そうじゃなくて、オンラインイベントの中でも例えばどういう設問をしたとか、それに対する回答がこうだったよと。ああなるほど、こういう回答に対する関心度はここのほうが高いねとか。そういう比較が私はできるんだと感じました。以上です。
山岸委員長	それでは、今前原委員おっしゃるように、イベントをオンラインでは2回開催した。仙北7市町村イベントは10人参加した。県内35市町村のイベントでは3人の移住相談を受けたという3つの内容ですよ。その中身をもっと詳しく教えてほしいということでもよろしいですね。要するに、今前原委員が言ったイベントはオンラインでやった、オンライン2回開催した時にイベント、オンライン2回の開催というのは、仙北7市町村でのイベントと一緒にということでもいいのかな。 前原委員。

前原委員	イベントが3回とか、そっちではなくてイベントを開いてオンラインで参加している人に対して、あなたは例えば、この美里町をどう思いますとか、そういう質問をしたとかね。あとは、どういう部分に魅力を感じましたとか。そういう質問をどういう質問をしたのかを私は聞いたほうがいいのかなと思ひまして。
山岸委員長	質問事項を事細かに聞く、それだったならば、その内容を例えば録音してとか、記録に残っているのであればですが、果たしてその内容を聞いても、大体私が思うにはこれ2回開催して10人参加とか、3人しか参加していないだけで、おおよその検討つきますよね。要するに、私思うにはあんまり内容が濃くなかったのかなと、そんなふうを感じるんですね。だったら、事細かに聞いたからといって答えは、内容を私たちが知ったとしてもそれ以前に施策としてもっと本町としては、定住、移住の希望する方に町の施策として、交通費だとか宿泊施設だとか、そういう事業内容になっていない。そういう方策を進めて、私たち議会としてはそういうのがなければ10人とか3人しか参加できないという成果がなかなか発揮できないのだよというふうには私は思ひます。事細かなこと聞いたからといって、本当に参考になるのかなと疑問に感じます。 櫻井委員。
櫻井委員	櫻井です。先ほど、赤坂委員が言った内容については大変重要なことだと思ひております。しかしながら、担当課でこれ以上聞いて深堀しても、いいですか、我々常任委員会は町の執行部に対して政策提言をしていくわけですよ。また回答をもらったからといって、それに対してやっても。この助成金だって、担当課で簡単にできるわけではないですよ。やっぱり、行政のトップがこうやる、予算をつけないとできないのだから、担当課に対してこれ以上深堀しても、私は何回も行ったり来たりになると思ひますよ。政策提言なのだから、そのとおりに受け止めておいて、そして今度のあっちに行った時、視察に27日、28日、29日に行った時に比較したらいいんじゃないかな。担当課に何回質問をしたって、同じような答えが来たら、また言うようになるよ。やり取りしたって、これは埒が明かない。委員長言ったとおりに、大局的な面で我々の今常任委員会ですらこうやって議論していることは、町に対して最終的には政策提言をやるというわけだ。だから、担当課とこれやれ、あれやれといひても担当課は勝手にできないさ。深堀してはだめ、こいつは。
山岸委員長	今、櫻井委員から意見いただきました。かつて前にもあったのですが、結局文通のやり取りを繰り返していたのです。なかなか、らちが明かなくなってしまうのですね。先ほど、私が言ったようにもう今回で2回、3回になるのですよ、最初の質問に対して回答が出て、それで回答が出たのに対して2項目でありましたけれども、もう一回中身を確認して今回回答をいただいて、課長の話ですとなかなか私ら、たとえ課長であっても町の施策にそれが反映していないと例えば予算化とか事業がきちんと施策としてないと担当課としても簡単に進めることはなかなか難しいということはある

	りますと口頭では聞いております。私は十分にそれは理解していますから、もちろん課長達がこうなんだと言ったとしても、最終的には議会で予算承認とか、事業承認されない限り進めることはなかなかできない。そのために私たちが委員会でもって施策を提言するということで進めているわけですから、今前原委員おっしゃるのもよく理解は私はできますけれども、今回3回目になるのですね。この辺で私たちは大体想像がつきます。まだまだ町の施策としてのそういう事業展開になってないというのがまず現状で私たちわかったのですから、そのために新しい先進地に行って、そういう本町の事業展開と先進地で進められている、市町村で進められていることを勉強するということですから。このことについては、先ほど赤坂委員からは本当は実施した中身を知りたいことはわかりましたけれども、私あとでまたあらためて口頭でもう一回話を聞いてきます。回答として文書では今回もらいません。そういうことで今回の担当課からに対しては、この今の項目については、私口頭で聞くということで、そういう進め方ではないと思いますがそれでよろしいですか。 （「はい」の声あり） わかりました。私口頭でもう一回、このことについては確認をしてまいります。 もう一つの項目ですね。2枚目。最初の質問ですね。登米市、栗原市、東松島市など移住サポート事業助成金、交通費、宿泊費の助成などに取り組んでいますが、美里町はどうなっていますか、ということで、本町では移住体験ツアー、移住お試し住宅などの事業実施していないため、交通費、宿泊費などの補助や助成を行っておりませんが、引き続き検討してまいります、というのが前回の答えで、今回の再々質問の答えに引き続き検討するということだが、どのように検討を進める考えなのかと再々質問しております。ここで本町の移住体験、移住お試し住宅の事業については、移住、定住について地域おこし協力隊員とともに空き家の利活用を含めた様々な観点から検討を進めてまいります、という回答をいただいております。皆さんからこの回答についてご意見あればいただきたいと思います。いかがですか。 赤坂委員。
赤坂委員	さっき、櫻井委員が言ったことと同じように、要は回答は美里町ではやっておりますということの結論なのですね。これ以上、追求したってどうにもならない。それをいろいろ先進地を勉強した中で、こうすべきじゃないかと、それは議員が一般質問なんかで強く働きかける、町長に対してね。それでは、わかりましたと、それについて予算検討しますと、そういう方向に導いていくということだと思ふのね。だからこの回答については、これ以上追求しようがないのではないかと思います。
山岸委員長	赤坂委員からは、本町では事業とか予算化していないので、これ以上聞いても担当課では答えようがないだろうということで。皆さんからほかに意見ありますか。

櫻井委員	今話出たとおり、事業をするには予算が伴うことだから、常任委員会の政策提言として町長側にぶつけていかなければならないのだな。そのような方向で進めてください。
山岸委員長	今櫻井委員から、我々常任委員会として町執行部のほうにそういう事業展開していくのに対してちゃんと予算をつけて、施策として取り組むことを我々議会として執行部に提案、提言するという方向で進めるということなのですけれども。私もまったくそのとおりだと思います。 それで皆さん、よろしいですか。 （「はい」の声あり） それでは、2問目の再々質問に対しては今の内容で、さらに質問することとはしません。これで一応、回答については終了したいと思います がよろしいですか。 （「はい」の声あり） よろしければ、次に移ります。次は所管事務調査についてということで、所管事務調査の行き先はもう決定してございます。大分県豊後高田市、大分県臼杵市、この2か所に決定してございます。相手の市からもしっかりと快く引き受けていただいておりますので。それで、私たち常任委員会としてこの所管事務調査に行く前にですね、どういうことをお尋ねするのかということで、佐野副委員長にこの豊後高田市と臼杵市の視察研修質問事項の案ということで取りまとめさせていただきました。 （「委員長、ちょっと」の声あり） 櫻井委員。
櫻井委員	櫻井です。今の協議事項の大きな項目は所管事務調査についてでしょ。だから、所管事務調査については調査候補地とそれから日程も何月何日から何日とはっきり言わないとこれ会議録に残るのですよ。表題とこの日程を入れないと。それから副委員長に作ってもらった案をしていかないと。きちんと日程を入れないと正式に所管事務調査にいくのだから。金出てるんですからね。ただで行くわけではないですからね。公費で行くのですからね。
山岸委員長	ただ今、櫻井委員からご指摘いただきました。その日程と日にちは今私口頭で話しましたがけれども、6月10日の第7回の総務、産業、建設常任委員会で協議事項の2)でですね、所管事務調査の日程と日付と場所はもう協議してございます。
櫻井委員	協議してるけど、相手の受入れが決定したからと27日か29日と。前のやつは決定してない。私が言ったのは、調査候補地と日程は何月何日に引き受けてもらいましたとはっきり最初に言わないと、会議録に残るのだから。難しいこと言ってるわけではないのだから。
山岸委員長	わかりました。あらためて、6月10日に皆さんにお話しして確認しているのですが、もう一回お話しします。総務、産業、建設常任委員会の所管事務調査については、7月の27日から29日、いわゆる2泊3日になります。行き先は、先進地として大分県豊後高田市、それから同じく大分県臼

	杵市、この2か所を既に当方の視察の受け入れを承諾していただいております。あと、今の段階でまだ確実な行程表を旅行社にお願いしていますので。移動の手段として、交通機関として電車使うとかあるいはレンタカー使うとかはまだはっきりしていませんので、それははっきりした時点で行程表をあらためて皆さんにお渡ししたいと思います。 それで、所管事務調査の目的は当然、私たち常任委員会の移住、定住に関するということでそのことを相手方の先進地の豊後高田市、臼杵市に対して、どういうことをお尋ねしたいのかということで、その内容についての設問事項を佐野副委員長にまとめていただきましたので、これからそのことについて協議したいと思います。 （「7ページね」の声あり） 7ページです。佐野副委員長、このちょっとお願いします。
佐野副委員長	質問事項ということで案を各豊後高田市と臼杵市ごとにまとめてみたのですが、その前に再度、豊後高田市と臼杵市の状況を確認してから皆さんで質問事項をまとめたほうがいいのではないかと思います。豊後高田市の定住ガイドブックの内容と、これは事細かにいろいろと出ておまして。それとワンランク上のスローライフという、これは豊後高田市のホームページ上の内容と市長の部屋というところでどういう施策を重点的にやっているかが書いてありますので、その辺をもとに質問事項を確認したほうがいいかなと思って資料を検索してみましたので、皆さん方にお配りしております。 それと豊後高田市は昭和の町ということで、だいぶ商店街がシャッター街になったのですが、その中で昔の街並みを再現して、いろいろな賞をとっているのですが、2006年には27万人の観光客が訪れて、視察が終わった後に、豊後高田市の目玉になっているようですので、その辺も移住、定住ではないのですが参考になるかなと思います。 それと臼杵市も定住関係の内容と市長の施策、住み心地一番の町づくりに向けた6つの柱ということでやっていますので、この辺も重点的にしている市のようにございますので、その辺を参考に質問事項をまとめたらいいのではないかと思います。一応まとめてはきたのですが、再度皆さんのほうで確認をお願いしたいということでございます。 それと豊後高田市は人口規模別、若者世代、単身者が住みたい町、子育て世代が住みたい町、シニア世代が住みたい町で1位を獲得している住みたい田舎ベストランキングということで、移住、定住だけではなくて、子育て関係と教育関係に重点的にお金を使っているようで、非常にお金を使っているようなのですが、その財源がふるさと納税から子育て関係は寄付金を充てているという文章でございまして、調べてみるとふるさと納税は4億円くらいで、当町は1千万行くか行かないかで。その辺はやっぱり、財源をしっかりと確保した中での施策をしている状況のようでございますので、中学校までの給食費の無料化と高校生までの医療費、これは当町でも今年からやってますけど。例えば、出産祝い金は4子以降は100万円とい

	ような施策を市長のに書いてありますので、その辺をいろいろお話を聞いたらいいのではないかと思います。一応質問は作ってみましたので後で検討をお願いします。 それと臼杵市につきましては、6つの施策ということで、やはり安心して子育てできる環境づくりということと、高齢者が地域で生き生きと暮らせる環境づくり。あとは移住、定住の促進ということで、そういうふうな内容に力を入れている状況だと思いますので、一応資料を確認した中で質問事項についてご協議いただきたいと思います。と思っています。 それで一応読み上げますので、案ということで皆さんの検討をお願いしたいと思います。まず、豊後高田市への質問事項ということで、移住、定住促進についての取組ということで、9項目ほどまとめております。1番目が移住、定住対策と実績について。2番目、定住促進、無償住宅地。2か所ほど土地代無償で住宅地を提供しているところがあるようですので、その辺について。1と関わりがあると思うのですが。3番目がお試し居住制度。4番目が空き家対策について。5番目が子育て支援、これは教育、民生の絡みもあるのですが、一応移住、定住のセットでしているようなのでお聞きしたらいいではないかということで。あと6番目の教育の町づくりという、町に塾が少ないということで行政のほうでいろいろ取り組んでいる。あとは就労支援ということで、職場がなければ住む方もない。あと財源、施策の財源ということで、非常に対策をしている。どれくらいの対策費なのかかわからないですが、例えば先ほども言ったように子育てについてはふるさと納税を財源に充てているというようなことございますので、その辺の内容を。あとPRの関係、先ほどネット上のワンランク上のスローライフなど、いろいろPRしている様子なので、その内容を確認したらいいのではないかと思います。 臼杵市が同じ表題というか、移住、定住促進についての取組ということで、1番目が移住、定住対策と実績について。2番目が空き家対策について。3番目が子育て支援について。それと4番目が定住促進、住宅補助金。ここの特色で何世代も、2世代、3世代同居しているところに補助金を出す。あと若者、若年夫婦、子育て世代と。あとここもお試しハウス、農村民泊。これも先ほど議論になった、ちょっと試してその地域に何日か泊まってやるような施策。あと6番目が就労支援について。7番目が施策の財源。8番目が施策のPRということで、ちょっと項目が多いかもしれませんが、その内容で一応、質問事項ということで案を取りまとめたので、皆さんのほうでご検証をお願いしたいと思います。
山岸委員長	今、佐野副委員長からまとめていただいた内容について説明をしていただきましたが、豊後高田市は9項目、臼杵市が8項目になっていますが、どうでしょうかね。時間の制約がございまして9項目全部、聞きたいことは間違いがないのですが、これ関連する部分があると私思います。1番、2番、移住、定住対策の実績であと定住促進の無償住宅地とか。要するに所管の課の事業名に一緒の部分があると思うのです。これを9項目全

	部並べるのではなくて、できたらば関連する課のやつは一つの質問事項で答えていただけたらと思うのですが。一本ずつ、9項目をやると時間が足りなくなるのではないかという思いが今一瞬したので、その辺も含めて、皆さんからこの質問事項の少し。9項目ではなくてもうちょっと、なんぼか関連するやつは一本の文章にするとか、質問したらどうかと今私思ったのですが、皆さんからいかがでしょうか。 赤坂委員。
赤坂委員	赤坂です。これ両方に言えることなのですが、窓口はどこになって今回の承諾を得られたのかということが一つね。それでこれだけの項目があると行政のすべての分野に関係してくるのね。そうなった時に、向こうに行った時に教育委員会に行くのか、総務課に行くのか、まちづくり推進課に行くのか、その辺をチェックして整理しないと時間いくらあっても足りないと思うし、向こうとしても各課に及んでいろいろなことになると向こうの受入れの体制も、ちょっとその辺を整理してもらわなければならない必要が出てくる。その辺、現段階で確認されたの、委員長。
山岸委員長	これはあくまでも、私たちの常任委員会では移住、定住ということでの先進地ということでの先進地で、この豊後高田市と臼杵市を選んで、これから行く前に質問事項のこれを。
赤坂委員	違う、違う。だからね。
山岸委員長	確認はまだしてませんよ。
赤坂委員	してないの。だって、視察の受入れはしてもらえるのでしょうか。
山岸委員長	そうです。
赤坂委員	だから、その視察を受入れするという時に向こうの担当部署がどこになって、それでどういう内容ですかって、そういうことは聞かれなかったですか。
山岸委員長	ちょっと待ってください。
赤坂委員	私もよく視察を受け入れる時は先方のことを聞きながら、どういうことを勉強したいのですかとやっぱり答える必要はある。
山岸委員長	こちらでこの先進地の方々に申込する時にちゃんとそういう目的とか、まず文書で送ってあちらでそれを見て、はい、受け入れますということになった。 休憩します。
	休憩 午前10時22分 再開 午前10時36分
山岸委員長	再開いたします。6名委員そろっておりますので会議は成立しております。引き続き、会議を進めます。 佐野副委員長からまとめていただきました質問事項9項目ございますが、先ほど来、いろいろ意見出てますが、これをもう少し関連する項目と今回私たちの移住、定住とちょっと離れている、例えば教育の町づくり、もちろんみんな関連はしているのですが、私たちの移住、定住についての

	ほうから数として減らして取りまとめた質問事項にしたいと思いますが、それで皆さんにお尋ねをしたいと思います。あくまでも移住、定住の直接的な質問事項を何とか少し調整したいと思いますが、皆さんからその辺、1番から9番までございますので、これを少し絞ってまとめたい。 例えば、1番と2番は移住、定住対策の実績についてとさらには定住促進の無償宅地についてという、これを当然関連してますよね。これを例えば一つの1行の質問にするとかね、例えばですけれども。そういうことで皆さんからいろいろ意見をいただきたいをお願いします。 赤坂委員。
赤坂委員	私は興味あるところは割と子育て支援に力入っているということを、ただそれで子育て支援で強調されているのが、いろいろ無料化、幼稚園授業料、保育料無料化、それから給食費、全部でしょう。それから、出産祝い最大200万も出すんだと。だからね、これはすごい魅力ですよ。俺も孫住まわせるならここに住まわせたいと思う。ただし、ここが我々美里町としてどうやるかということの勉強に行くので、これはどう考えても美里町では無理だなというやつは少しチェックをしてみる必要はあるしね。だから、移住、定住対策がメインなので、空き家も含めて。そこが一つの括りでいいのではないかと思う。それは臼杵市のほうも共通して言えることだと思うのだけれども。大きくはやっぱり、子育て支援、教育の町というところでしょうね、大きく括るとすれば。私の意見はそういうことで、時間的にまだ余裕があるかな、ないかな。こいつ臼杵市と豊後高田市のやつをちょっと比較表、一覧表で作ってみるとはっきり見えてくると思うのだけれども。頭の中にはこつこつみんな入れることはできるけれども。でも、誰もそれやる人いないね。得意な人いた。ちょっと考えます。
山岸委員長	今、赤坂委員からはまず1番と2番は一本でもいいのかなというご意見、同時に。 (「4までいい」の声あり) 1、2、3、4までですか。赤坂委員の意見は1、2、3、4を一本の括りでいいのではないかという意見です。同時に子育て支援。
赤坂委員	大きいタイトルの3つが、片括弧で言えば1、2、3、4まで。あとは子育て支援というのが大きい2番目。そして小さいので子育て、教育の町づくりというところ。できる。
山岸委員長	ですから、皆さんのご意見聞いて。
赤坂委員	全部聞きたいわけだから。
山岸委員長	もちろん、全部聞ければ最高にいいんですが、あちらの時間的な部分だと思ってるもので。 藤田委員。
藤田委員	藤田です。8番、9番を一つにして施策ごとの財源とPRを含めてこれ一つにしたほうがいいかなと思います。あと、教育の町づくりと子育て支援がこれも一つと。あとは子育て、何だ。1、2、3と3つぐらいに絞って。そうすると担当課のほうはそろってくるのではないですか、ここに書

	いてあるとおりに思いました。
山岸委員長	藤田委員からは、施策前の財源と施策のPRが一括りと。1、2、3、4が一括り。子育て支援と教育の町づくりは。これも一括り。2と5と6を一括りとしますか。いろいろ考え方ですからいいです。大体3つくらいの括りにというご意見だと思います。 前原委員、ありますか。
前原委員	まず最初に、この質問事項（案）ということで副委員長にまとめていただいたと思うのですが、このまとめていただいたものは逆に副委員長が何を参考にこれをまとめたのか、そこを先に教えていただきたいと思います。
佐野副委員長	まとめたのはですね、1番目の移住、定住というのは全体的なあれですが、その中でガイドブックなり市長の施策の中で重点的なやつと今までに聞いたことのないような無料宅地とかがあったものですから、その辺の内容を1番目に入るのですが、特にこういうものも項目に入れて聞いたほうがいいのではないかと。あと子育てとか教育に力を入れているということで、あと就労にも力を入れているということで項目に入れております。あとは結構、無償化とか給食とかがありますから、それについての財源が非常にかかると思いますので、お金ないとできないですからね。だから、その辺の内容をどのように、それとやはり全国からナンバーワンに選ばれるというのはPRが非常に上手じゃないかなと思って、PRのやり方、たぶんどこかに頼むと思うのですけれども、その辺の内容ということで一応案を作ってみました。以上でございます。
前原委員	ということは、今日出していただいた資料を読んだり、調べてそこから出して。 （「私が感じた内容を」の声あり） 気になる言葉とか単語を拾ってまとめたものですよということですね。私の捉え方としては、この豊後高田市の定住ガイドブック、ホチキス止めてある、これが一番何だかんだ、全部その中から拾えるのかなと。また別のやつ、ワンランク上のスローライフ、あと市長の。資料をいろいろ作ってもらったのですが、これら一応我々読んでいるわけですから、本当に質問項目は大きく3つくらいでいいのかなと。それで、ガイドブック等を読ませてもらいましたと、委員長の挨拶から始まって、それらについて3点か4点くらい質問させていただきたいと。例えば、ガイドブックについてとか、そういう大きい括りのほうがいいのかなと思いました。
山岸委員長	そのガイドブックから、今佐野副委員長が説明したとおり、この豊後高田市の移住、定住についてのその9項目をガイドブックから今拾ったと佐野副委員長が説明しています。この9項目の中から絞ってと、前原委員もあまり数多くても絞ったほうがいいというご意見ですので、皆さんも今同じようなご意見いただいていますので、その絞る内容の意見をまさに今聞いております。大体3項目くらいに絞ったらいいのではないかとということなのですが。 櫻井委員。

櫻井委員	櫻井です。では、案として決定ではないですよ。一番上の移住、定住対策の実績と定住促進、無償宅地についてを一つにしたらいいのでは。それから、空き家対策とお試し居住制度についてと2つにしたらいいのでは。3つ目は子育て支援と教育の町づくりについて。4つ目は施策前の財源とPRについてと。5つ目は就労支援について、就労もこれは大事なんだな。
山岸委員長	今、櫻井委員からは9つの項目を5項目くらいにまとめたらというご意見でございます。どうでしょうか、皆さんからそれぞれ意見は出ましたけれども。 赤坂委員。
赤坂委員	櫻井委員と同じですが、要は全部聞きたいわけ。だから、ずらり9つ並べると答えるほうも嫌になるから、5項目くらいに整理した中で片括弧がいくつかという組み合わせを作ればすっきりするのではないですか。
山岸委員長	今、赤坂委員から基本的に櫻井委員の5項目にまとめることについて、その質問事項の文章をうまく大きい項目の、あとは1)とか2)とかのまとめ方でどうですかというお話がありました。 櫻井委員。
櫻井委員	委員皆さんね、考えとか目標は一つですよ。だから、先進地は先進地でかなり出します。項目が多くてもみんな回答するから。優秀な職員を置いてますから。私は27年間、2年間はできなかったから、25年視察をやっています、全国を。項目出しても回答ちゃんと寄こすから。さっき前原委員が言ったガイドブック、これは読んで行ったほうがいい。ただ、相手に対して広くなる。ガイドブックだけ説明してくださいというところから、やっぱり項目をこうこうと出して要約してやるとあっちの受け入れる先進地も楽だと思います。だから、項目多くたって心配することはない、大丈夫、回答出るから。 (「慣れてるからね」の声あり)
山岸委員長	今、櫻井委員からは何項目あっても、先進地はちゃんと答えてくれると、それは私も十二分に理解はしていますけれども、あくまで時間と相手の先進地の方々にも、確かに我々今資料ありますから、私ら行く前にしっかりとこれを読んで一定の内容は理解して行かなければならないと思っています。ただ、こちらから文書でこういう質問させていただきますということで、先進地のほうに送りますので、言うとおりの、わかります。ただ、一定の時間があるので絞りたいという考えでございます。 櫻井委員。
櫻井委員	各委員、個人個人の考え方もやり方も違うのだから、ここで副委員長がたたき台として素案を出してくれたのだから、非常にありがたいなと思ってね。資料なんかも全部出してくれたのでしょ。私たちの考え一人一人違うから、この辺でこの案をもとに委員長と副委員長と事務局の佐藤さんの3人で今各委員から出た案を参考にして、文書作ってやったらいいんじゃないでしょうかね。すみません、余計なこと言ってね。
山岸委員長	今、櫻井委員から確かに前向きなご意見いただきましたが、ここは櫻井

	委員がおっしゃるとおり、みんな目的は一つです。常任委員会として、美里町の移住、定住の促進ということでの研究テーマで進めます。議員各位がみんな考えが違っても目的は一緒です、一つです。同時に議員はそれぞれ考えがバラバラな意見を言っている一つにまとまりませんし、研究テーマをまとめることも難しくなりますので、そのために皆さんに協議をしていただいて、皆さんに了解を得て一本にまとめて進めていくということだと思っておりますので、櫻井委員がおっしゃる部分、もちろん理解できますし、ただ私と副委員長と事務局でまとめろというのは。その前に皆さんで協議をして、内容をしっかりお互いに共通認識を持っていきたいと思っています。 それで再三今、櫻井委員が最後に9つの項目を5つくらいにまとめたいという意見出ましたけれども、それで私もいいのではないかと思います。 櫻井委員。
櫻井委員	何と言いますか、相手に対して質問事項をやるというのは難しいよね。失礼のない項目を作っていかなければならないと思うし、やっぱり我々委員からは、この件に関して1時間以上議論してもう出てるよ。それを今度は、委員長、副委員長、事務局で要約して、そんな難しいことではないでしょう、もう副委員長も作ってきているのだから。これをまとめて、あと各委員からもう意見は出たと思うのですよ。だから、どうなのでしょう、その辺を皆さんに投げかけてみてください。委員長と副委員長と事務局でまとめてよろしいですか。そうじゃないと前に進まないよ。ごめんね。
山岸委員長	はい、わかりました。櫻井委員から進めた方がよろしいということなのですけれども、今6名の委員それぞれにご意見いただいています。9つの項目を5項目にまとめるということで皆さんよろしいですか。 (「はい」の声あり) はい、わかりました。では皆さん、共通認識、合意を得るために今言いますからね。先ほど、櫻井委員が最後におっしゃっていただきました1番から9番まであるうち、1番と2番を1つの質問。次、3番と4番も2目の質問。3番目の子育て支援は1項目。そして、8番と9番。 (「子育て支援と教育は1つにしているよ」の声あり) すみません。子育て支援と教育の町づくりを一括りね。あと、就労支援が1つ。8と9が施策前の財源と施策のPR、これで一括りね。全部で5項目になりますが、このまとめ方でよろしいですか。 (「はい」の声あり) はい、そのようにまとめさせていただきます。ただ、この文章の書き方は先ほど赤坂委員おっしゃったように、うちの佐藤理子さんにも協力いただきましてね、佐野副委員長と協力してきちんとまとめたいと思います。それでは、豊後高田市への質問についてはこれでよろしいですね。 (「はい」の声あり) わかりました。次にですね、櫻井委員。

櫻井委員	何回もすみません、櫻井です。ここで質問事項だし、あっちに回答しますから、回答したものがすべてでないので、委員が視察に行っても足りない部分は追加で聞いてもらってもいいんだよ。追加でね。 （「それはもちろん」の声あり） お願いします。以上です。
山岸委員長	皆さん、わかっていると思います。アドバイス、ありがとうございます。赤坂委員。
赤坂委員	今、櫻井委員言われたとおりですが、うちもいろいろ視察の受け入れをしているけども、その時に例えば大括りで、例えば会社のこれまでの歩みと概要についてとかと大きいテーマなんですよ。そこにちょっと1つ、2つ加えてくるところがあるけれども、受け入れる方は、たぶん豊後高田市も自慢話はいっぱいしたいと思うのさ。そうすると、こっちが聞きたいことも最初から話の中に入れてくると思うよ。その時にこっちとしては、聞きたかった、これがちょっとまだ少し答え十分でなかったという時に再質問みたいだね。そういうことであれば、もっともっといろいろなことを聞けると思うんだよ。だから。あまり先手使わなくてもいいのではないかな。 （「さじ加減、知っているから」の声あり）
山岸委員長	皆さん、私たちも何回か視察研修に行っていますから。ただ一番の問題なのは、相手の答えに対してあまり失礼な質問、無礼な質問だけは気をつけていただきたいと思います。 それでは次に臼杵市についての質問事項に移ります。よろしいですか。 （「同じだよ」の声あり） 今、豊後高田市で取りまとめしましたので、臼杵市についても一応8項目ございます。これを皆さんで協議していただいて、どういうまとめ方をするか、どうぞ今前でやっていますから、大体はわかると思いますけども、若干質問事項違いますからね。皆さんからご意見お願いします。 赤坂委員。
赤坂委員	どっちも視察目的同じなので、例えば今、豊後高田市のを整理した段階で、その宛先を豊後高田市と臼杵市に入れ替えただけで、中身は同じでいいという気がするけどね。 （「そうさ」「ただ、若干中身違うんですよ」「4番目とか、5番目とか」「4と5だけそこに入れたほうがいい」の声あり）
山岸委員長	わかりました。それでは、まず1番、2番、移住、定住対策と実績、あと空き家対策についてを一括りでいいですか。よろしいですか。 （「はい」の声あり） 次に子育て支援と、どこだ。3番と4番も一括りでいいですかね。多世代、若年夫婦、子育て世帯とあります。子育て支援と入っていますから、どうですか。3番、4番、一括り。 （「別」の声あり） 別にしたほうがいい。 （「4番は別」の声あり）

	4 番だけ別にします。 (「3 番は別」の声あり) 3 番を別にして、4 番をお試しハウス、4 番、5 番、一緒。 前原委員。
前原委員	豊後高田市の括りが先に決まったので、それと関連した括りの仕方になれば、必然的に質問項目も固まってくるのではないのでしょうか。なので、そこは委員長、副委員長で任せますのでお願いしたいと思います。そんなに難しいことではないと思いますので。例えば、さっき話出ました移住、定住が 1 番ですよね。それと豊後高田市は 2 番の定住促進、無料住宅が同じ括りになっていたの、それが臼杵市の場合はどれかと。 (「4」の声あり) 4 番ですよね。そうすると 1 番と 4 番を一緒にするとか。 (「そう、そう」の声あり) そういう括り方で私はいいと思いますが、よろしくをお願いします、委員長。
山岸委員長	そうすると、臼杵市の 1 と 4 で一括りですか。空き家対策はいいのですか。 (「5 も」「5 はいいと思います」の声あり) 1 と 4、1 つ。いいですか。1 と 4、一括りね。それから、空き家対策とお試し、2 と 5、いいですか。2 と 5 で一括りね。それと、3 は、一本。 (「子育ての」「うん」の声あり) 3 は一本ね。3 は一括りね。3 だけね。 (「子育て支援だけ」の声あり) そして、6、7、8 は。6 も一つね。 (「7、8、一緒」の声あり) 7、8 で一括りね。いいですか、いいですね。 (「委員長に任せます」の声あり) また。 (「委員長の言う言葉待ってんだよ」の声あり) 任せるのではなくて、皆さんをまとめるために皆さんの意見聞いているのですからね。 (「私に任せなさいって」の声あり) それは最後にいうことだから。いいですか。確認します。まず、移住、定住対策と実績については、1 と 4 ですね。1 と 4。そして 2 と空き家対策とお試しハウス、5 番。2 と 5 と 6、違う。2 と 5 は一括りですよね。2 と 5。それから 3 番の子育て支援と就労支援。3 と 6 が一括りね。 (「違うべっちゃや」の声あり) 子育て支援、一本、一括り。はい、それからお試しハウスと。 (「空き家対策」「2 番」の声あり) 2 番だね。 (「あと就労が一つ」の声あり)

	子育て一本、就労、6番。 （「子育てと就労、一緒にしたらいいんじゃないか」の声あり） あと7、8が一緒ね。5項目、同じだね、5項目ですね。はい、このようにまとめさせていただきますので、よろしいですね。 （「よろしくお願いします」「委員長」の声あり） 前原委員。
前原委員	一つね、今回我々一つ思っていたのですが、地域おこし協力隊の絡みが全然載ってないんですよ。だから2つの自治体とも地域おこし協力隊については取り組んでないのか。今回、我々の美里町に関しては地域おこし協力隊がキーワードになってきていますよね。それも一つの項目として入れたらどうかなと思っていました。
山岸委員長	確かに本町の取り組み、4年度に何人か。ずっと提案してきたのですが、初めて4人の地域協力隊員が入りましたから。これ、どうですか。豊後高田市と臼杵市の両方に地域協力隊員についてということも1項目追加しますか。どうですか。 前原委員。
前原委員	移住、定住の今回の視察ですよ。この移住、定住について地域おこし協力隊との関わりであるとか、そういう括り方で質問したらどうかなと。お願いします。
山岸委員長	今、前原委員からですね、我が町で今回4人の地域協力隊員が採用されましたし、それについて豊後高田市と臼杵市についても地域協力隊員の取り組みについてという項目で。今、両方とも5項目にしたのですが、一つ増やして6項目にして地域協力隊員の取り組みについてはという項目を質問事項に入れて、増やしてよろしいですか。 赤坂委員。
赤坂委員	豊後高田市のガイドブックの中の12ページには、地域おこし協力隊事業と書いてあるけど、あまり力が入っていないようだな。だから、やらなくたってこの町はどんどん移住、定住促進しているのだと。だから、自力で頑張る町ですよっていうことをたぶん強調していると思うのね。一応、取り組むのだけれどもどうなっているのかな、これ。 （「だから、そこを聞きたいんです」の声あり） 聞かなくたっていいんじゃない。あまり参考にならないのでは。
佐野副委員長	口頭で聞けばいいんじゃないの。
櫻井委員	豊後高田市の場合は、地域活力創造課、課なんだよね。中身見るとあまり強くないんだな。
山岸委員長	我が町は、近隣町村もですが、みんな取り組んでいますから。
櫻井委員	わが町は4、5年遅れている、協力隊は。
山岸委員長	取組はうちは、今赤坂委員が言ったように定住者が増えているからあまり力入れていないのだという答えになるかもしれないけど。どうします。質問事項に入れますか、入れませんか。 （「口頭でいいんじゃないか」「はい」の声あり）

	口頭にする。よろしいですね。よろしいですか。 (「はい」の声あり) わかりました。それでは、そのようにさせていただきます。 今、臼杵市の質問事項も5項目に取りまとめるということで、皆さんから決定をしていただきました。ほかに何か皆さんからご意見ございませんか。なければ、今日の協議事項はこれでほぼ終了ですけれども、全体的に何かお気づきになった点とかありましたらお話しください。 休憩します。
	休憩 午前11時 8分 再開 午前11時10分
山岸委員長	再開いたします。 皆さんからほかに特別お話ございませんか。なければ、これで第8回総務、産業、建設常任委員会を閉会いたします。 (「次回は」の声あり) 失礼しました。次回の常任委員会の会議の日程について協議をいたします。 (「休憩をお願いします」の声あり) 休憩いたします。
	休憩 午前11時11分 再開 午前11時16分
山岸委員長	再開いたします。 次回の常任委員会は、開催をせずにですね、7月14日の町村議員講座の時に所管事務調査の行程表と2つの市に対する質問事項のまとめた文章を皆さんの手元に14日に手渡しをする、そういうことにさせていただきます。以上でございます。 (「はい」の声あり) では、これで閉会といたします。佐野副委員長、閉会の挨拶をお願いします。
佐野副委員長	本日は、所管事務調査の関係の質問事項なり、皆さんにご協議して決定させていただきました。7月の27、28、29ということで、非常に今年は猛暑というような予定のようでございますので、皆さん十分体調には万全をして臨みたいと思いますのでよろしくお願いします。 大変ご苦勞様でございました。
	閉会

会議の経過を記載して相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和4年6月23日

総務、産業、建設常任委員会

委員長